

## 大森第五小学校改築の基本構想に向けた考え方

### 1 改築にかかるコンセプトについて

改築にあたっては、教育委員会として学校や地域の特色を活かし、地域とともにある学校づくりを目指している。大森第五小学校は、開校 90 周年を迎える歴史ある学校である。学校の敷地東側には区内最大級の面積を有する平和の森公園があり学校に隣接している。さらにその南側には大森ふるさとの浜辺公園も位置している。そのため、これらの公園は持久走大会や清掃活動等の課外授業でも利用されている。学校独自の教育活動としては、「ブルートライアングルプロジェクト」に取り組んでいて、児童が自然環境に触れる機会を創出している。また、スポーツ施設や公園が集積する「新スポーツ健康ゾーン」の中に位置している学校でもある。

併せて、学校がある地域の大森本町の呼称は、旧東海道・現美原通り商店街を中心に商店が立ち並び、海苔問屋も多く商業が栄えていたことから名づけられたという歴史的な背景もある。

以上のように、新スポーツ健康ゾーンの中に位置し周辺の施設に恵まれた立地、公園との「つながり」や「一体感」を大切に自然の中での学習環境の充実や健康教育の推進、旧東海道や海苔問屋といった地域の歴史や特色などを活かした学校施設となるような、大森第五小学校の改築に係るコンセプトを基本構想の中で決めていく。

### ■ 改築事業予定

時期	内容
令和 6 年 10 月～ 令和 7 年 2 月	プロポーザル実施期間（2月に事業者決定）
令和 7 年 3 月～ ～令和 8 年 3 月	基本構想 ・改築コンセプト及び施設整備方針の検討 ・改築手法に関する方向性の検討 等 基本計画 ・配置案（複数案）の検討、案の比較検討 ・配置案（複数案）におけるゾーニング案の比較検討 等
令和 8 年度～9 年度	基本設計
令和 9 年度～10 年度	実施設計
令和 10 年度～	工事

※今後実施する計画や設計、各種調査等により予定が変更となる場合がある。

## 2 複合化

令和6年3月に実施したボリューム調査（大森第五小学校改築に関するボリュームスタディ作成業務委託）の結果、高さ規制上既存校舎よりも大幅に高さを増やすことが困難であることに加え、必要となる想定諸室面積の校舎等を建築した場合、グラウンド面積が狭小な現行とほぼ同等の面積しか確保できないことから、小学校単独施設の改築とする。

## 3 改築手法

大森第五小学校は敷地狭小だが、区立公園の「平和の森公園」に隣接しており、同公園を活用することで無人での学校改築が可能となる。また、改築工事期間中の代替施設として大森スポーツセンター、青少年交流センターゆいっつ、平和島公園野球場及び平和島公園水泳場等の活用が想定できる。

以上のことから、大森第五小学校の改築手法については、無人改築を想定し検討を進める。

## 4 その他の要件

### （1）現体育館の取扱い

体育館の扱い（建替え、存置）については、コストや工期等を総合的に勘案し方向性を決定するものとする。

### （2）体育館、特別教室、校庭等の地域開放について

休日など休校時には、管理諸室や普通教室と体育館、特別教室を切り離れたセキュリティ区画を設け、体育館などで地域開放が実施できるよう将来を見据えた計画とすることを検討する。

### （3）環境配慮に関する基本的事項

脱炭素社会の実現に向けた環境負荷低減の取り組みとして、ZEBの基準を目指す。